

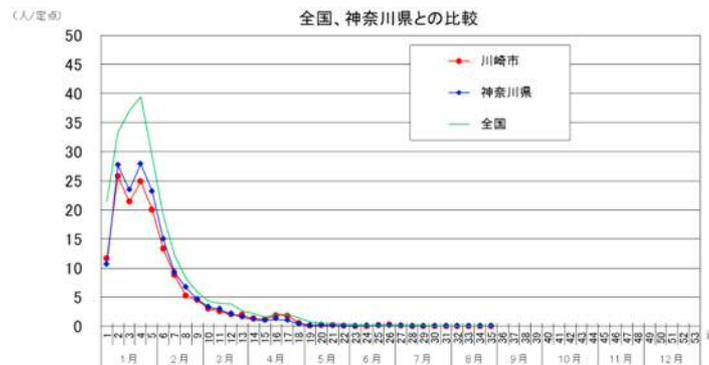
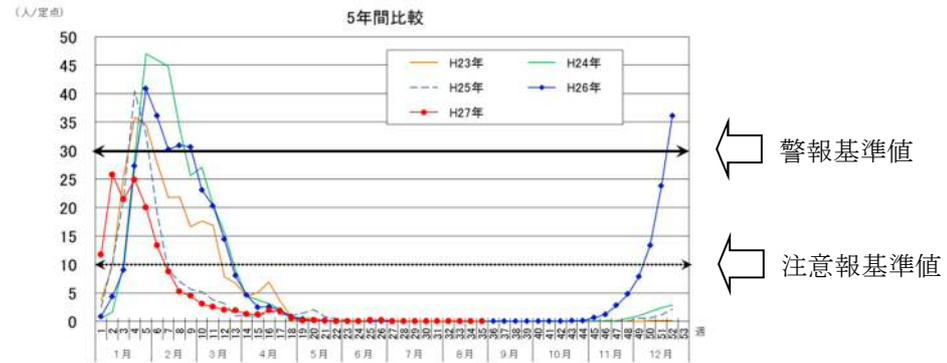
疾患別発生状況解析(平成 27 年 3 月～平成 27 年 8 月)

<インフルエンザ定点対象疾患>

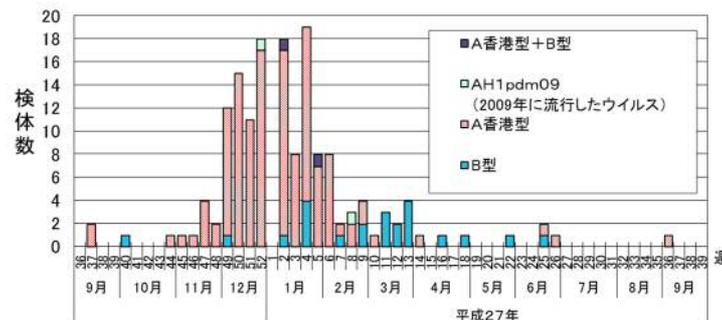
インフルエンザ(警報基準値:定点当たり 30 人、注意報基準値:定点当たり 10 人)

【川崎市】

今期(平成 27 年 3 月～8 月)は計 939 件の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 28%で、例年よりかなり低いレベルで推移しました。2014/2015 シーズンは、新型インフルエンザが流行した平成 21 年を除くと、平成 11 年のデータ収集開始以降、最も早い時期に流行発生注意報(第 50 週)及び流行発生警報(第 52 週)が発令されましたが、年明け以降は例年より低いレベルで推移しました。



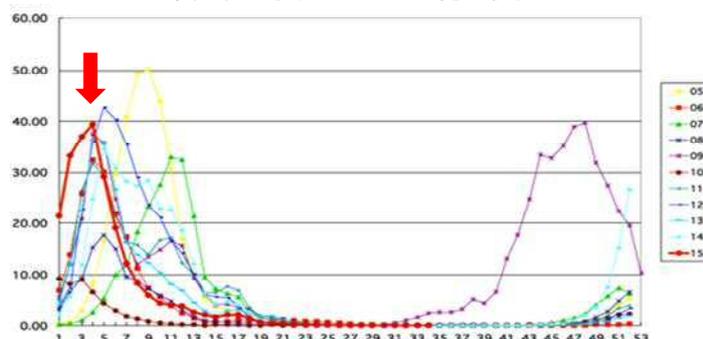
なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。2014/2015 シーズンは、AH3 亜型が 128 件、AH1pdm09 型が 2 件、B 型が 23 件検出されており、AH3 亜型と B 型の重複感染を疑う事例が 2 件ありました。



【全国及びその他】

全国的にも例年より低いレベルで推移しました。

全国におけるインフルエンザ発生状況



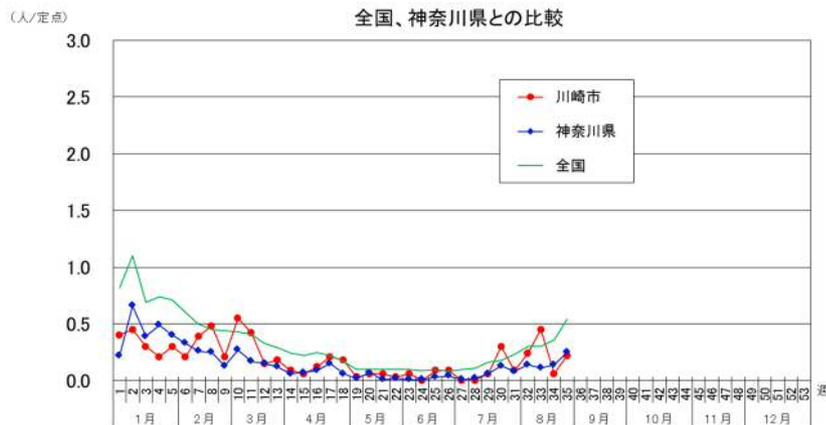
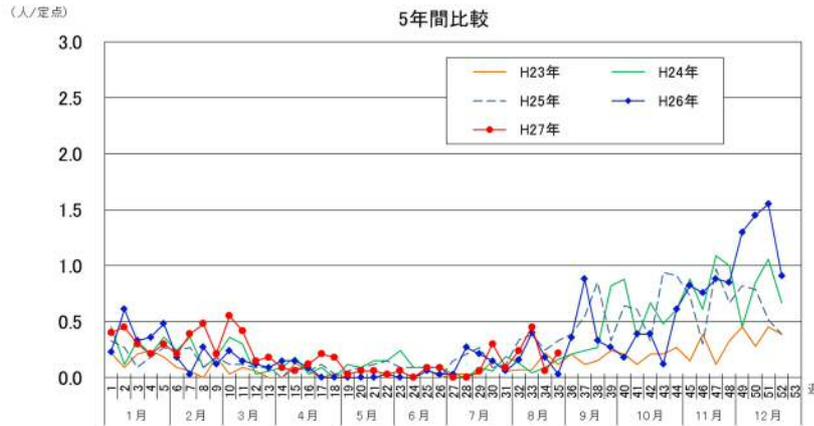
<小児科定点対象疾患>

RSウイルス感染症

【川崎市】

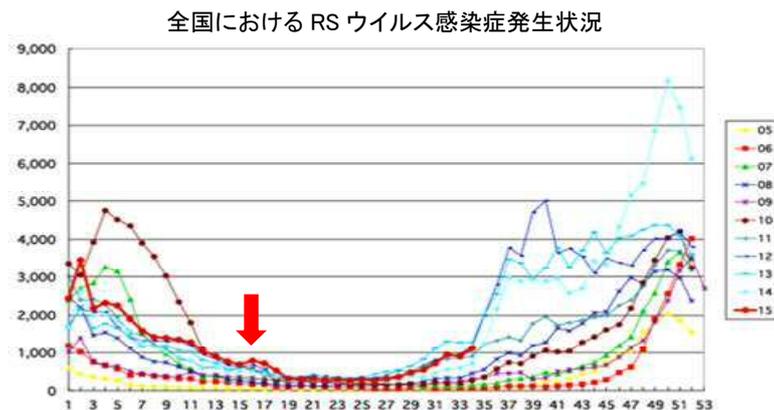
今期は計 121 件の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 148%で、例年より高いレベルで推移しました。平成 24 年以降、冬期の流行規模が大きくなるとともに、流行開始時期が徐々に早くなっています。

また、年齢別では 1 歳以下が 88%を占めていました。



【全国及びその他】

全国的にも例年より高いレベルで推移しました。



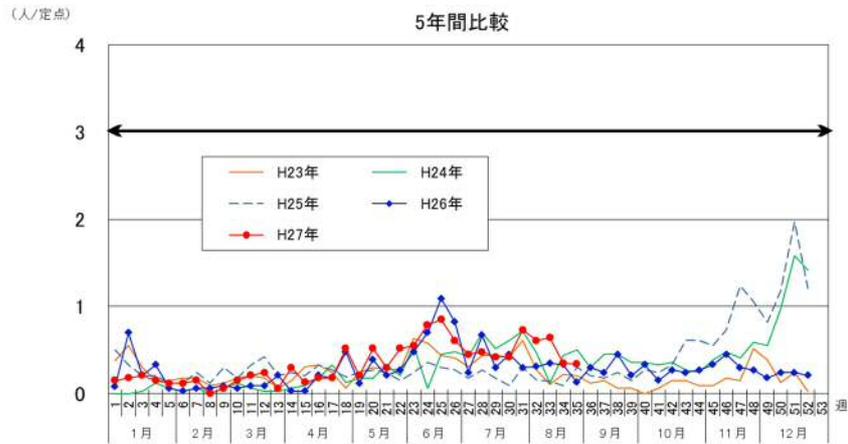
咽頭結膜熱(警報基準値:定点当たり3人)

【川崎市】

今期は計 347 件の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 148% で、例年より高いレベルで推移しました。

平成 24 年及び平成 25 年は、従来流行のあった夏期に患者数が増加せず冬期に増加する傾向が続いていましたが、昨年は 6 月を中心に高いレベルで推移し、今年も同様の傾向がみられます。

今期、流行発生警報基準値 (3) を超えた週は、宮前区で第 24 週 (3.20 人) でした。

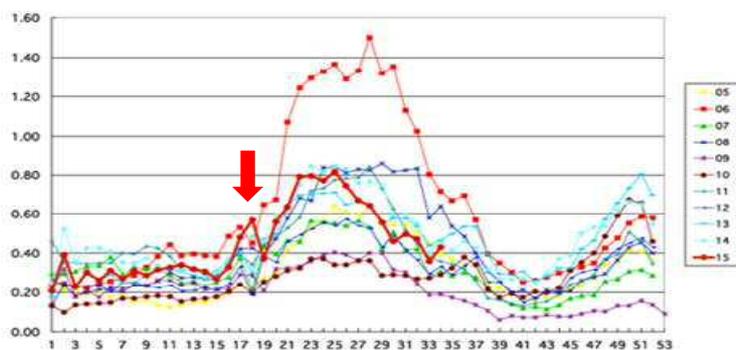


なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的にも例年よりやや高いレベルで推移しました。

全国における咽頭結膜熱発生状況

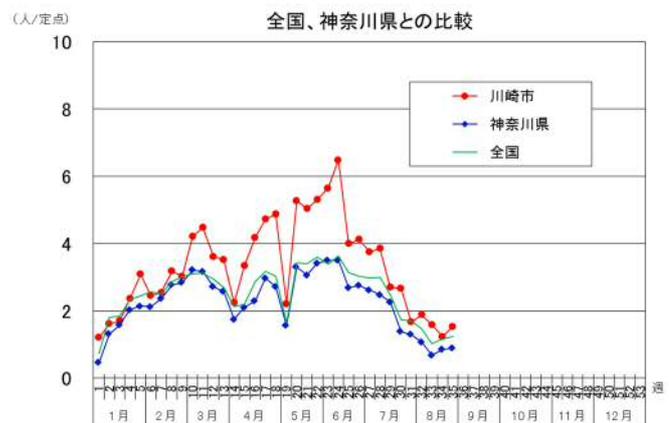
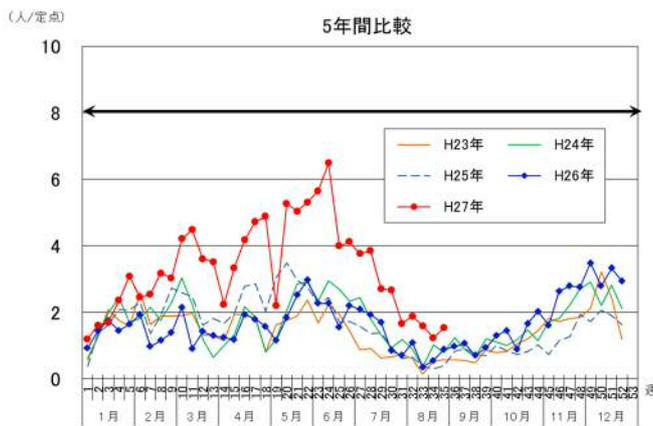


A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(警報基準値:定点当たり8人)

【川崎市】

今期は計 3,081 件の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 223%で、年明けから、例年よりかなり高いレベルで推移しており、6 月第 24 週 (6.48 人) に流行のピークをむかえました。平成 11 年のデータ収集開始以降、最多の報告数です。

今期、流行発生警報基準値 (8) を超えた週は、高津区で第 17 週 (9.00 人)、第 18 週 (12.00 人)、第 20 週 (8.00 人)、第 24 週 (10.80 人)、宮前区で第 20 週 (9.20 人)、第 21 週(8.00 人)、第 23 週 (8.60 人)、第 24 週 (11.00 人)、多摩区で第 10 週 (12.60 人)、第 11 週 (12.80 人)、第 15 週 (8.80 人)、第 17 週(10.20 人)、第 18 週 (9.00 人)、第 22 週 (10.00 人)、第 23 週 (10.00 人)、第 24 週(8.00 人)、第 25 週 (8.00 人) でした。



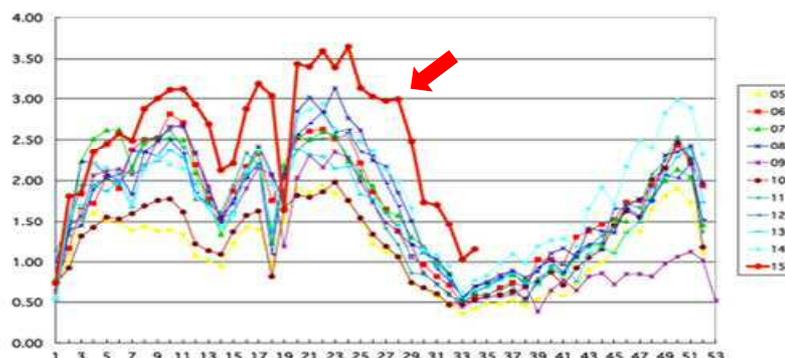
なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

検体送付日	区名	患者性別	患者年齢	検査結果	T 型別
H27.5.18	宮前区	女	3	A 群溶血性レンサ球菌	4
H27.5.18	宮前区	男	5	A 群溶血性レンサ球菌	12
H27.6.3	多摩区	女	40	A 群溶血性レンサ球菌	1
H27.6.8	多摩区	男	2	A 群溶血性レンサ球菌	1
H27.6.4	多摩区	男	5	A 群溶血性レンサ球菌	4
H27.6.11	宮前区	男	11	A 群溶血性レンサ球菌	不能
H27.6.12	宮前区	男	35	A 群溶血性レンサ球菌	不能
H27.6.29	多摩区	女	4	A 群溶血性レンサ球菌	1

【全国及びその他】

全国的にも例年よりかなり高いレベルで推移しました。

全国におけるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況

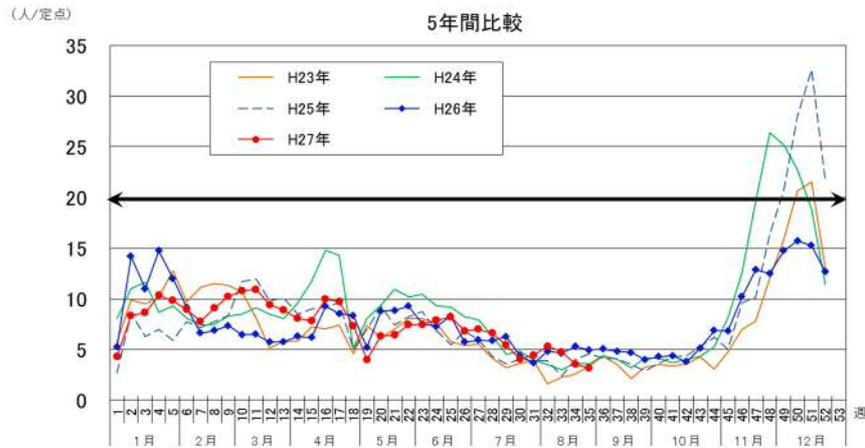


感染性胃腸炎(警報基準値:定点当たり 20 人)

【川崎市】

今期は計 5,935 件の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 97%で、ほぼ例年並みのレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値 (20) を超えた週は、川崎区で第 17 週 (21.00 人) でした。



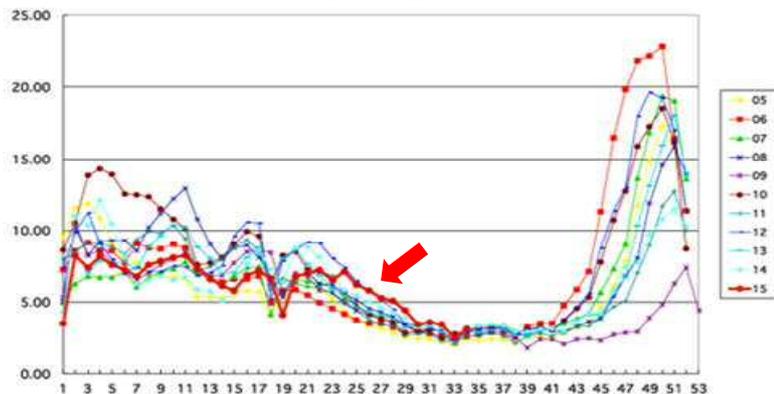
なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

検体送付日	区名	患者性別	患者年齢	検査結果(ウイルス)	検査結果(細菌)
H27.5.28	多摩区	女	0	陰性	陰性

【全国及びその他】

全国的には、6月以降例年よりやや高いレベルで推移しました。

全国における感染性胃腸炎発生状況

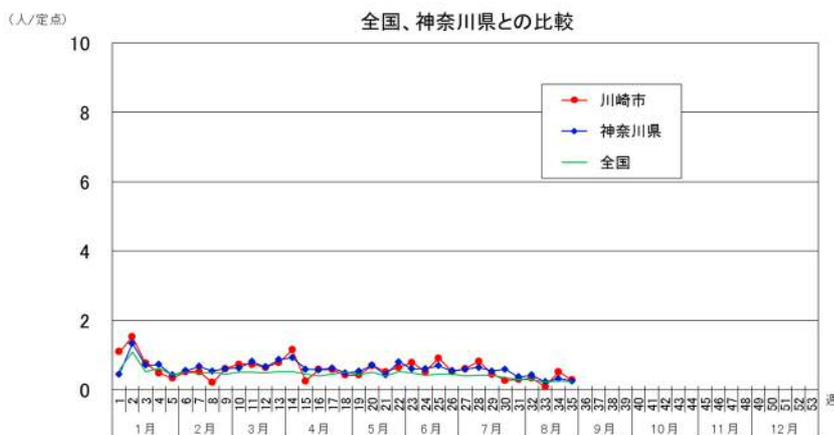
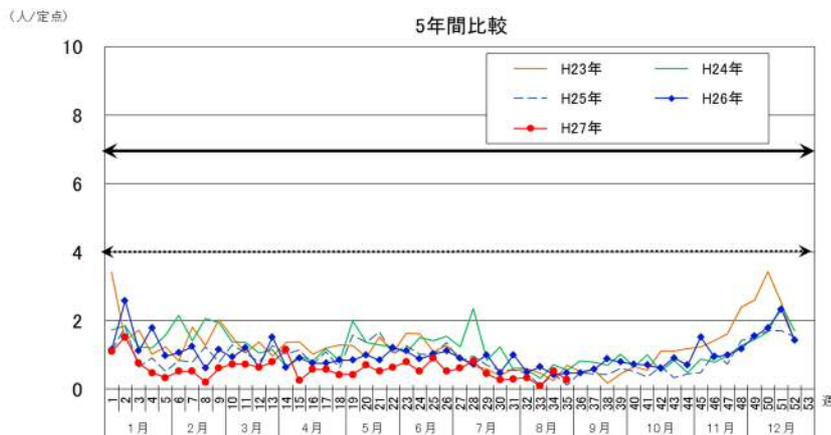


水痘(警報基準値:定点当たり7人、注意報基準値:定点当たり4人)

【川崎市】

今期は計 477 件の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 48% で、例年よりかなり低いレベルで推移しました。平成 26 年 10 月から水痘ワクチンの定期予防接種が導入された影響が示唆されます。

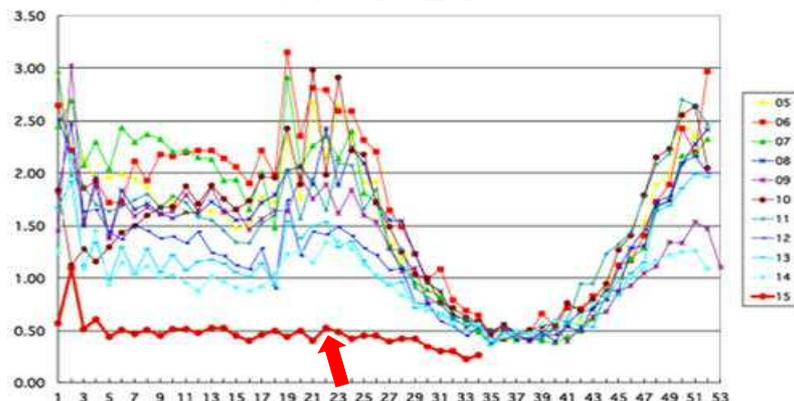
今期、流行発生注意報基準値 (4) を超えた週はありませんでした。



【全国及びその他】

全国的にも例年よりかなり低いレベルで推移しました。

全国における水痘発生状況

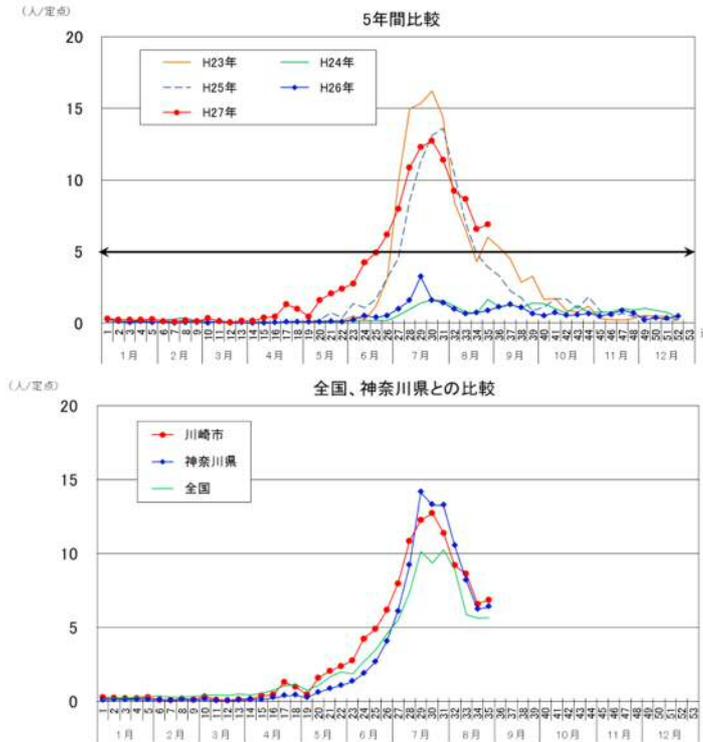


手足口病(警報基準値:定点当たり5人)

【川崎市】

今期は計 3,682 件の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 246%で、例年よりかなり高いレベルで推移しました。今期は 4 月下旬頃から患者数が増加し始め、7 月第 30 週 (12.73 人) にピーク (平成 11 年のデータ収集開始以降、過去 3 番目) となりました。

今期は、第 26 週～第 35 週に全市で流行発生警報基準値 (5) を超えました。



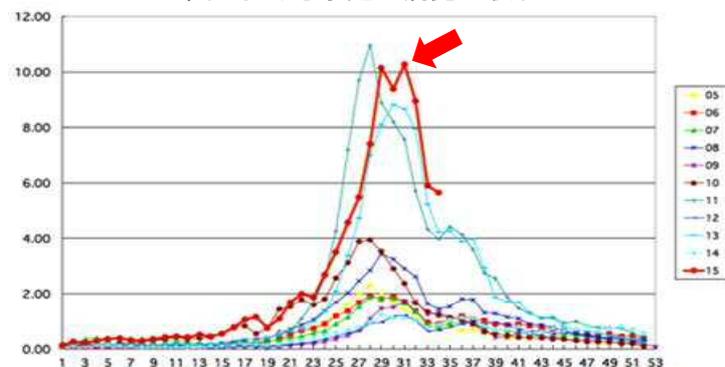
なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

検体送付日	区名	患者性別	患者年齢	検査結果	検査結果(亜型)
H27.4.23	高津区	女	2	コクサッキーウイルス	A16
H27.4.23	高津区	男	3	コクサッキーウイルス	A16
H27.6.15	高津区	男	1	コクサッキーウイルス	A16
H27.6.22	多摩区	女	2	コクサッキーウイルス	A16
H27.6.25	多摩区	男	1	コクサッキーウイルス	A16
H27.7.13	高津区	男	0	コクサッキーウイルス	A6
H27.7.13	高津区	男	1	コクサッキーウイルス	A6
H27.7.16	多摩区	男	3	コクサッキーウイルス	A16
H27.7.21	多摩区	女	1	コクサッキーウイルス	A6
H27.7.27	多摩区	女	1	コクサッキーウイルス	A16
H27.7.27	高津区	男	1	コクサッキーウイルス	A6

【全国及びその他】

全国的にも例年より高いレベルで推移しました。

全国における手足口病発生状況

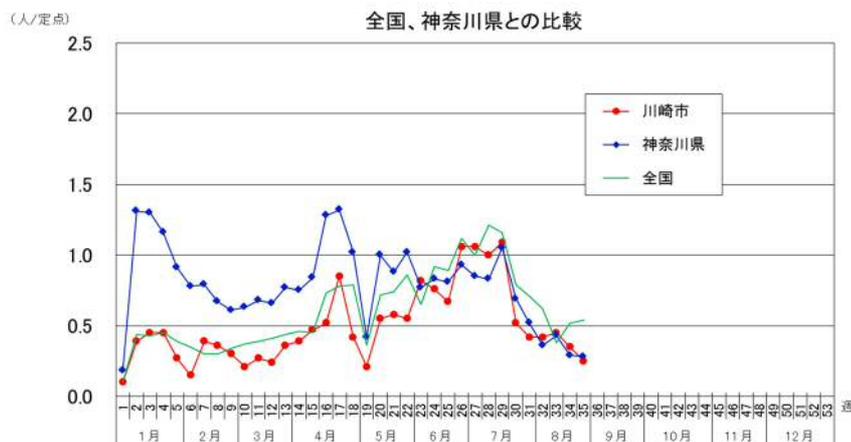
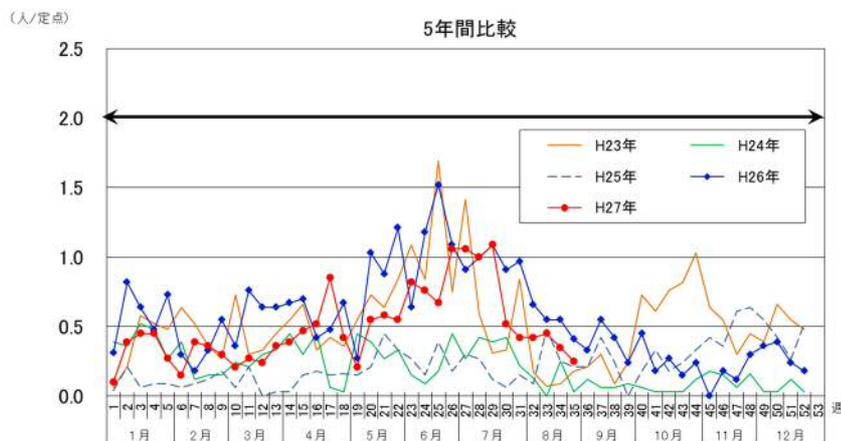


伝染性紅斑(警報基準値:定点当たり2人)

【川崎市】

今期は計 472 件の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 133%で、例年よりやや高いレベルで推移しました。特に、6月下旬から7月上旬にかけて高いレベルで推移しました。

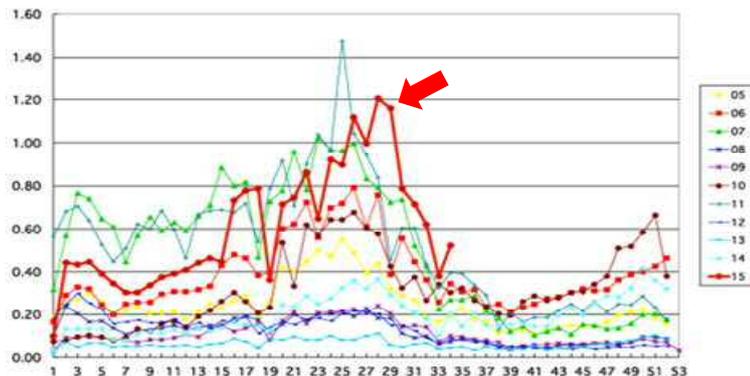
今期、流行発生警報基準値(2)を超えた週は、川崎区で第26週(2.20人)、幸区で第26週(2.75人)、第28週(2.50人)、中原区で第29週(2.20人)、多摩区で第17週(2.40人)でした。



【全国及びその他】

全国的にも例年より高いレベルで推移しました。

全国における伝染性紅斑発生状況

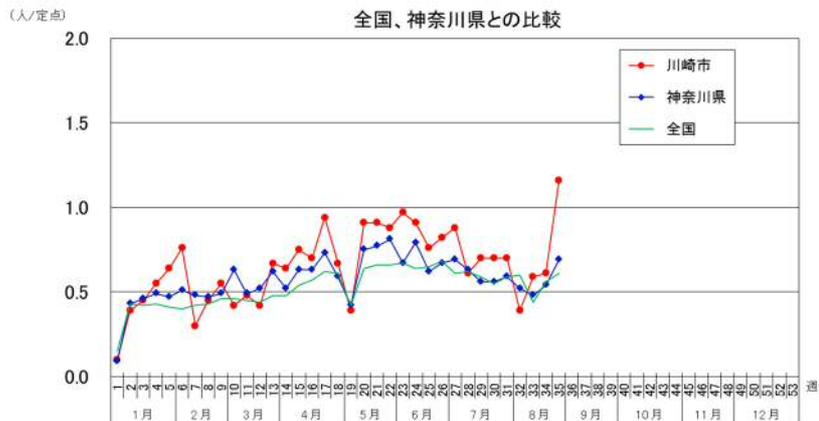
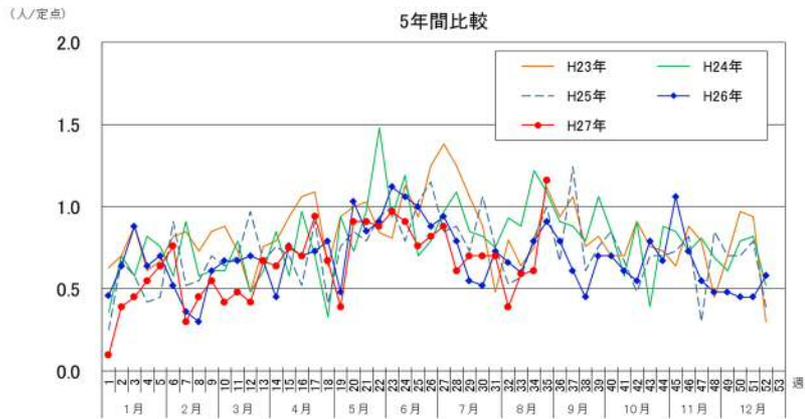


突発性発しん

【川崎市】

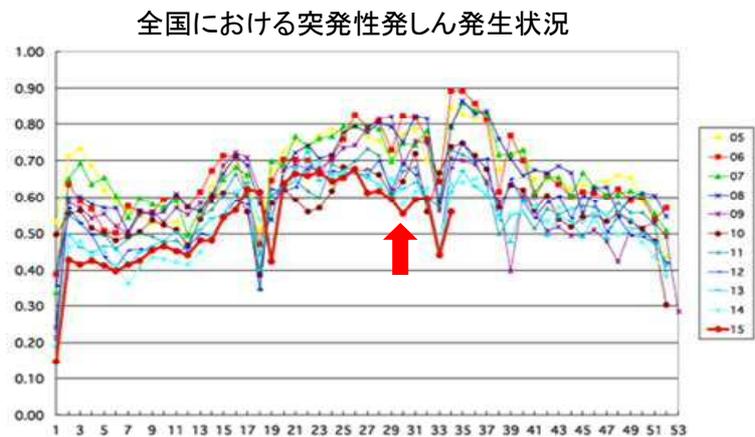
今期は計 603 件の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 85%で、例年よりやや低いレベルで推移しました。第 35 週は例年を上回る報告数でした。

また、年齢別では 1 歳以下が 88%を占めていました。



【全国及びその他】

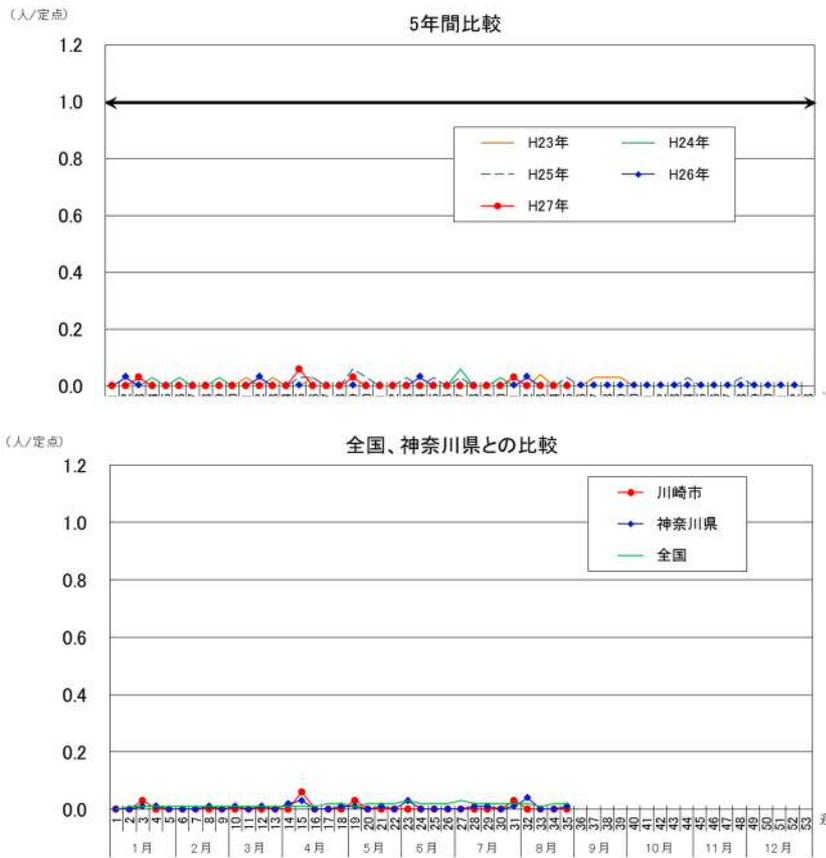
全国的にも例年より低いレベルで推移しました。



百日咳(警報基準値:定点当たり1人)

【川崎市】

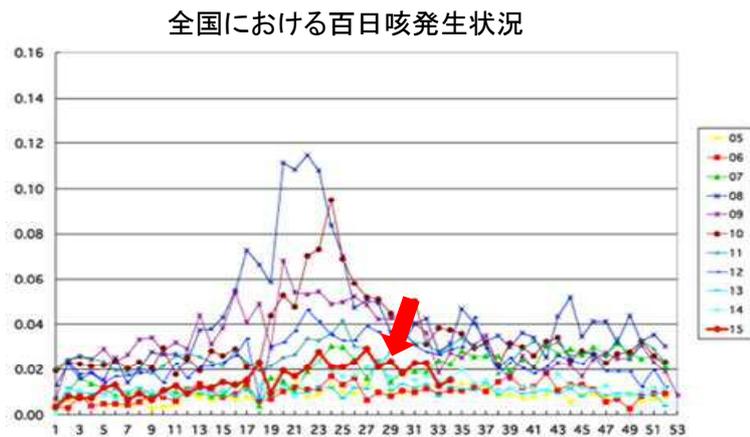
今期は計4件の報告があり、過去5年平均の報告数は5.8件で、例年よりやや低いレベルで推移しました。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的にも例年よりやや低いレベルで推移しました。

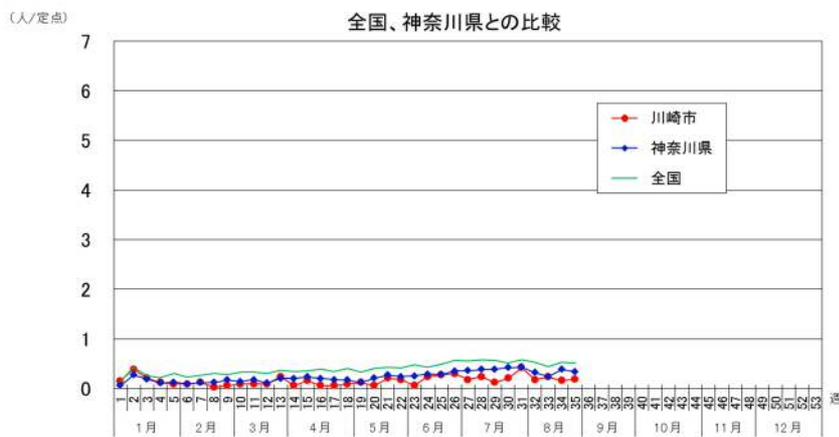
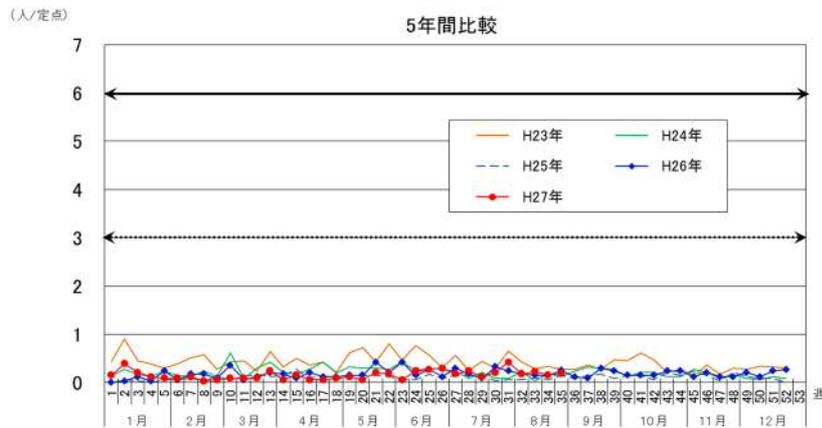


流行性耳下腺炎(警報基準値:定点当たり6人、注意報基準値:定点当たり3人)

【川崎市】

今期は計140件の報告があり、過去5年平均の報告数と比較すると51%で、例年よりかなり低いレベルで推移しました。

今期、流行発生注意報基準値(3)を超えた週はありませんでした。



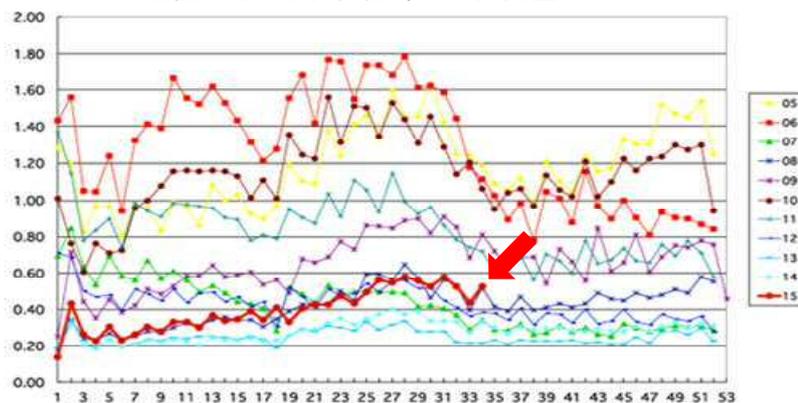
なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

検体送付日	区名	患者性別	患者年齢	検査結果
H27.6.24	川崎区	男	10	ムンプスウイルス

【全国及びその他】

全国的にも例年より低いレベルで推移しました。

全国における流行性耳下腺炎発生状況

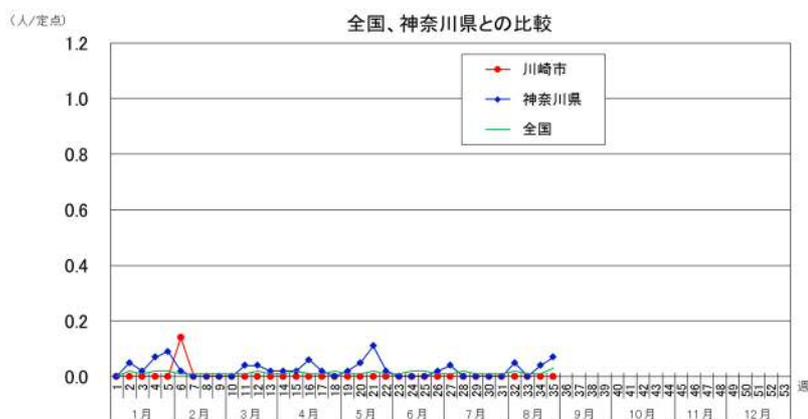
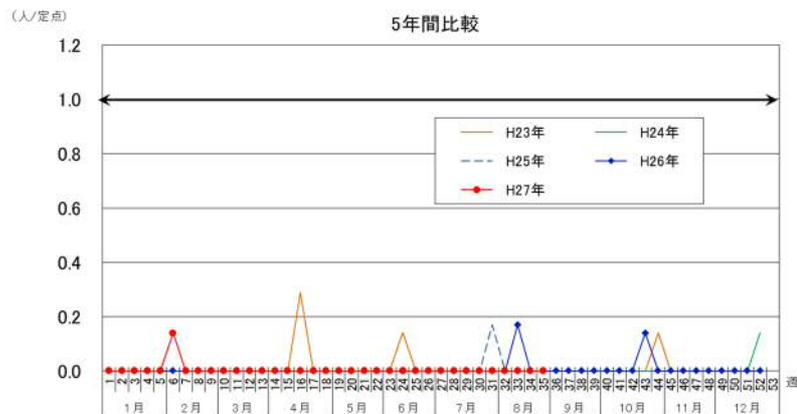


<眼科定点対象疾患>

急性出血性結膜炎(警報基準値:定点当たり1人)

【川崎市】

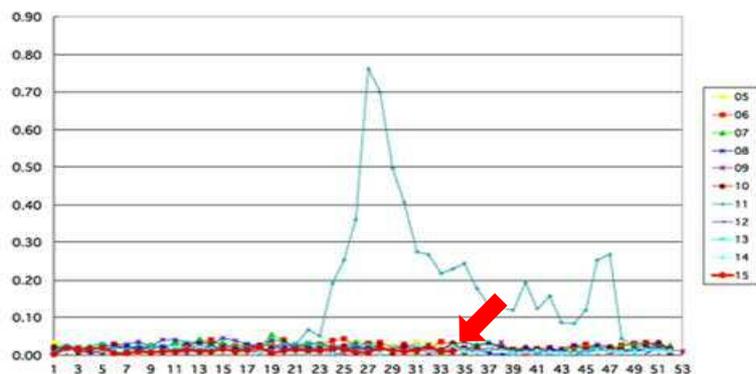
今期は報告がありませんでした。



【全国及びその他】

全国的にも例年より低いレベルで推移しました。

全国における急性出血性結膜炎発生状況

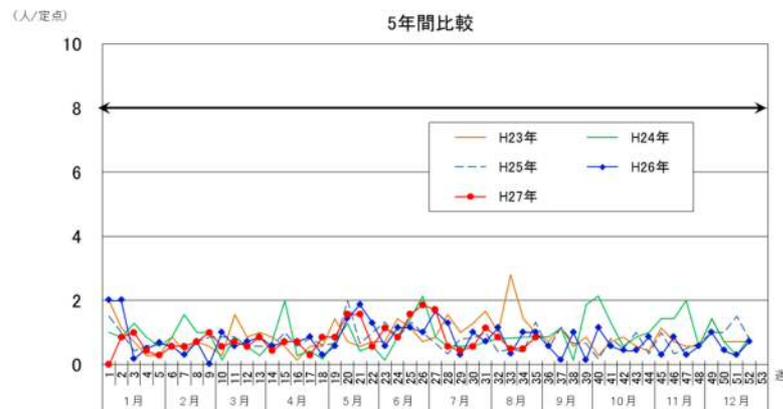


流行性角結膜炎(警報基準値:定点当たり8人)

【川崎市】

今期は計 159 件の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 105%で、ほぼ例年並みのレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値 (8) を超えた週はありませんでした。



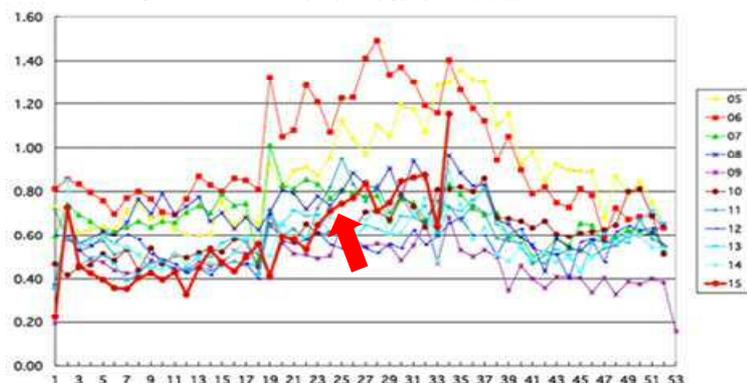
なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

検体送付日	区名	患者性別	患者年齢	検査結果	検査結果(亜型)
H27.6.26	川崎	男	32	アデノウイルス	37
H27.6.9	川崎	女	60	陰性	
H27.6.19	川崎	男	38	陰性	
H27.6.23	川崎	女	88	陰性	
H27.7.3	川崎	男	57	陰性	
H27.7.9	川崎	女	19	陰性	

【全国及びその他】

全国的には、5月頃まで例年より低いレベルで推移しましたが、6月以降高いレベルで推移しました。

全国における流行性角結膜炎発生状況

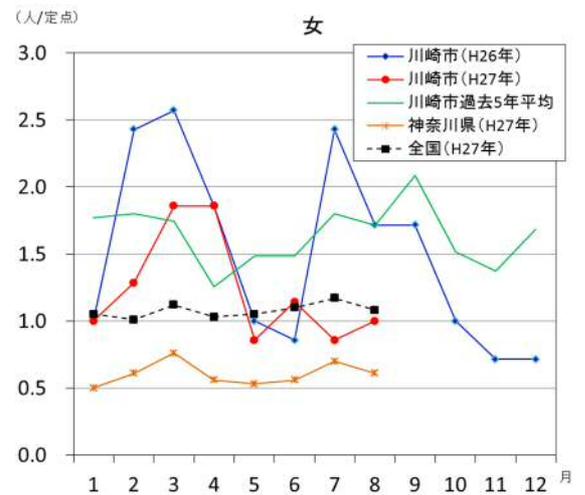
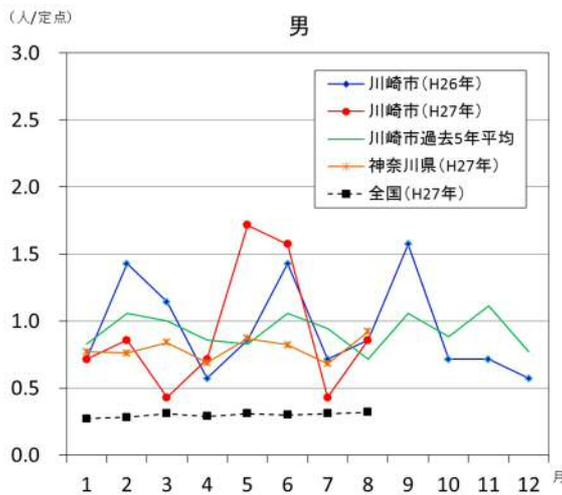
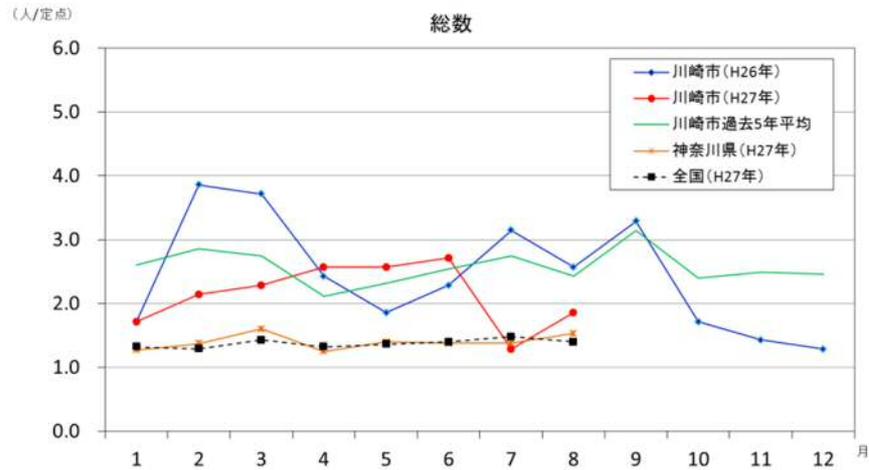


<性感染症定点対象疾患>

性器クラミジア感染症

【川崎市】

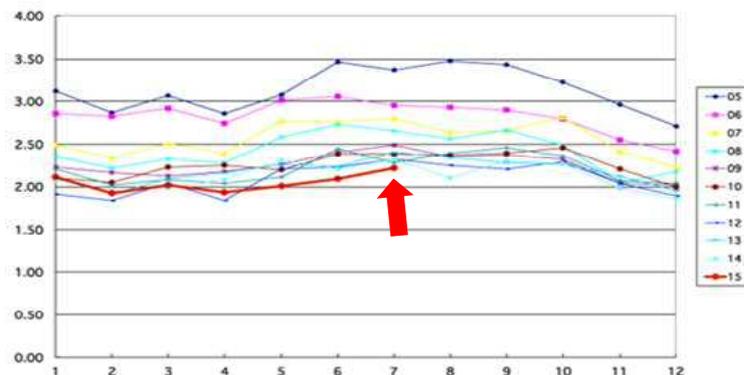
今期は計 93 件の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 89% で、例年よりやや低いレベルで推移しました。



【全国及びその他】

全国的にも例年より低いレベルで推移しました。

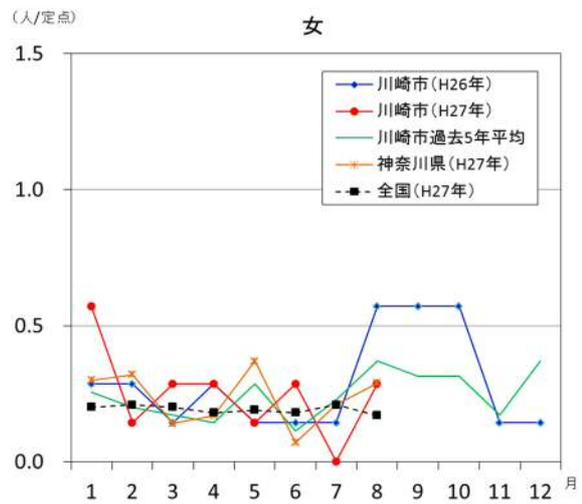
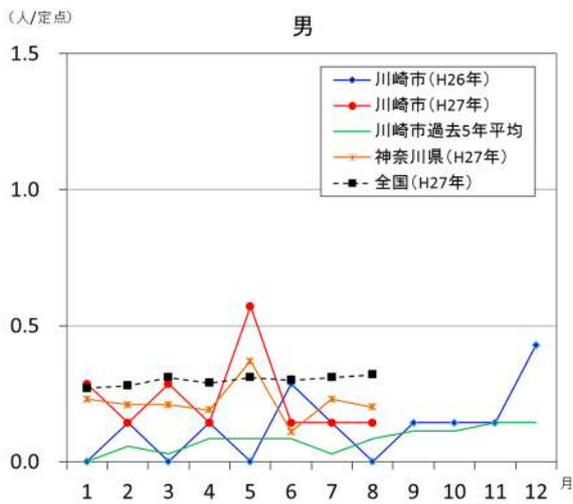
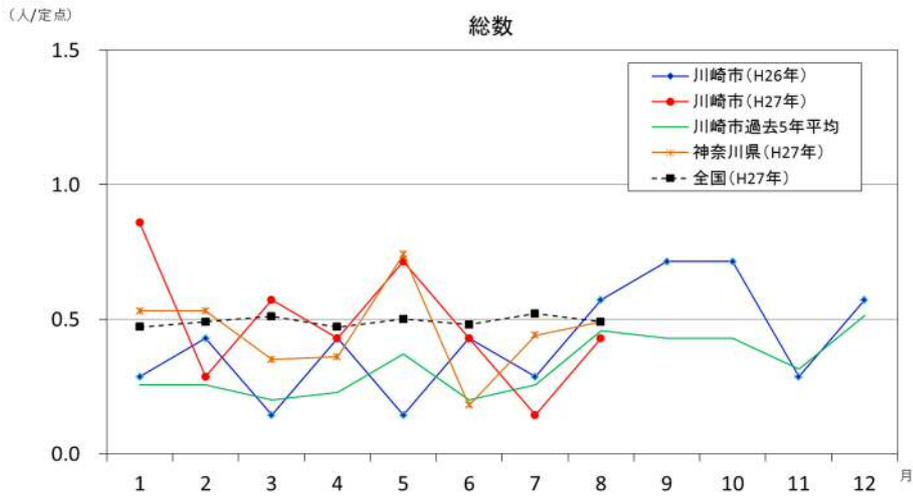
全国における性器クラミジア感染症発生状況



性器ヘルペスウイルス感染症

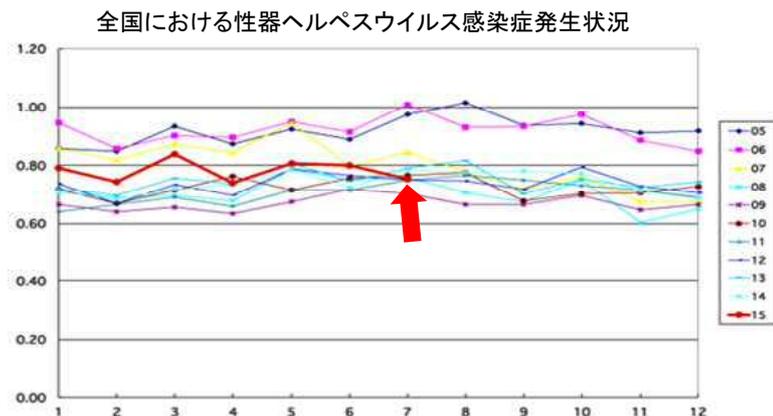
【川崎市】

今期は計 19 件の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 158%で、例年より高いレベルで推移しました。



【全国及びその他】

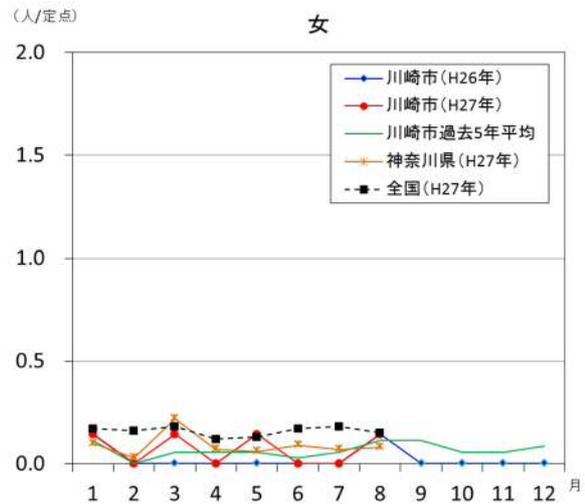
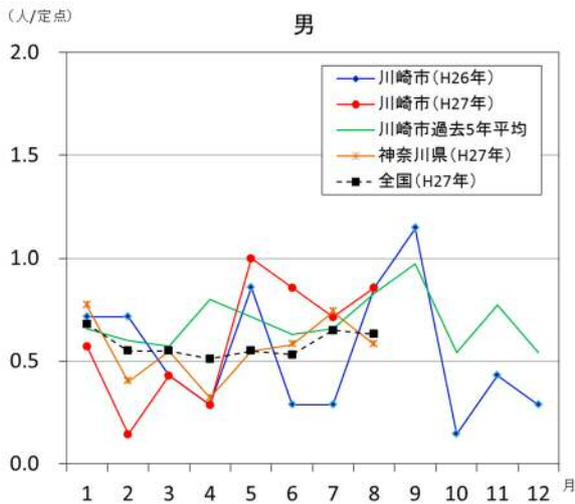
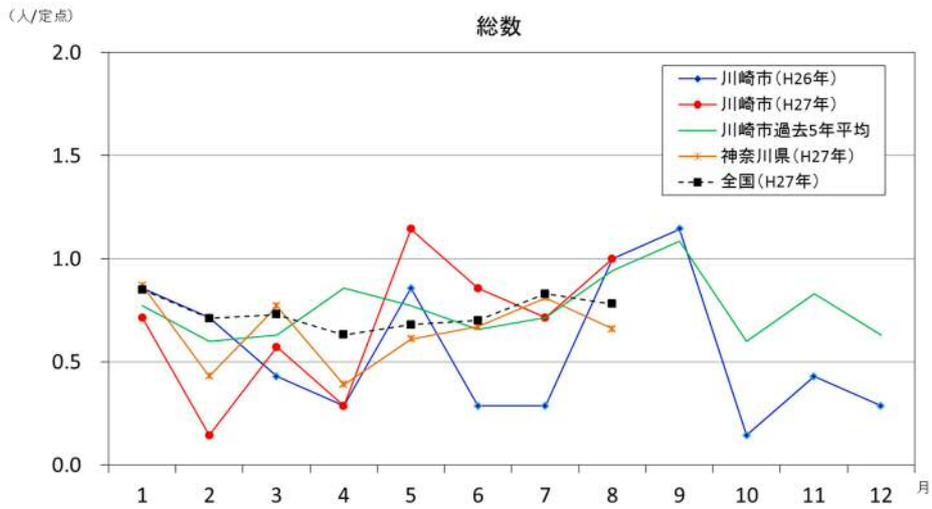
全国的にはほぼ例年並みのレベルで推移しました。



淋菌感染症

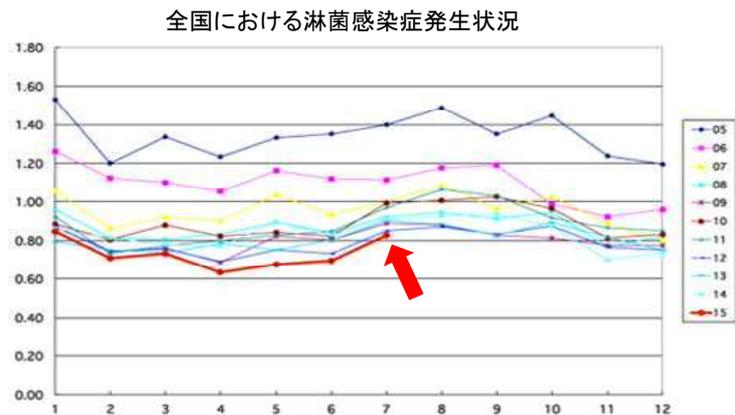
【川崎市】

今期は計 32 件の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 100%で、例年並みのレベルで推移しました。なお、男性では 5 月及び 6 月に例年よりやや高いレベルで推移しました。



【全国及びその他】

全国的には例年より低いレベルで推移しました。



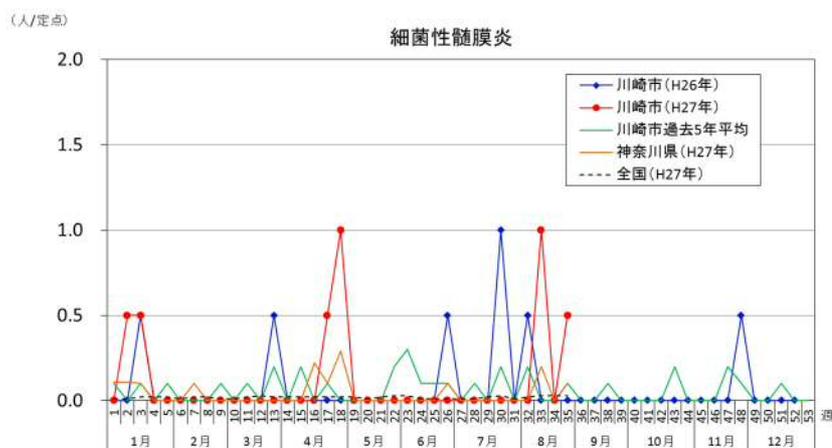
<基幹定点対象疾患（週報）>

細菌性髄膜炎

【川崎市】

今期は計6件の報告があり、過去5年平均の報告数は3.8件で、例年より高いレベルで推移しました。
 なお、検出された病原菌は次のとおりです。

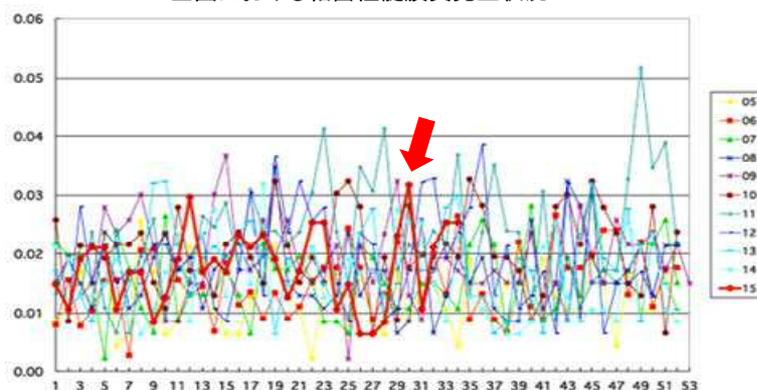
届出週	区名	患者性別	患者年齢	検査結果	検査部位
第17週	川崎	男	0	<i>Streptococcus agalactiae</i>	髄液
第18週	川崎	女	46	<i>Streptococcus pyogenes</i>	髄液
第18週	宮前	男	69	陰性	
第33週	川崎	女	68	<i>Staphylococcus aureus</i>	髄液
第33週	川崎	女	74	<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	髄液
第35週	川崎	女	58	<i>Staphylococcus aureus</i>	髄液



【全国及びその他】

全国的にはほぼ例年並みのレベルで推移しました。

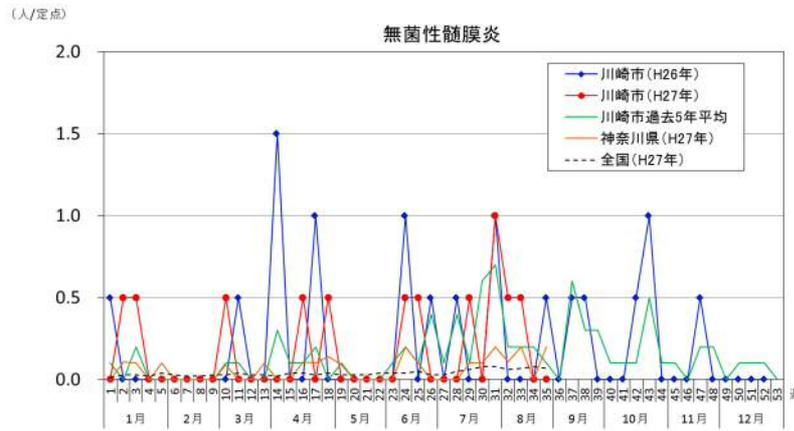
全国における細菌性髄膜炎発生状況



無菌性髄膜炎

【川崎市】

今期は計 10 件の報告があり、過去 5 年平均の報告数は 8.8 件で、ほぼ例年並みのレベルで推移しました。

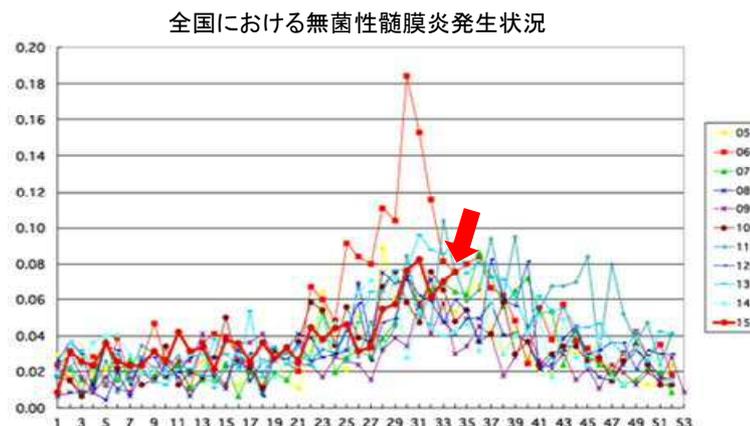


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

検体送付日	区名	患者性別	患者年齢	検査結果	検査部位
H27.4.23	宮前	女	30	エコーウイルス 16 型	髄液
H27.4.23	宮前	女	30	ライノウイルス	咽頭ぬぐい液
H27.6.9	川崎	女	28	陰性	髄液
H27.7.21	川崎	男	34	陰性	髄液
H27.7.27	川崎	女	38	陰性	髄液
H27.7.27	川崎	男	17	陰性	髄液
H27.7.30	川崎	女	0	サイトメガロウイルス	咽頭ぬぐい液
H27.8.5	川崎	男	6	エコーウイルス 9 型	髄液

【全国及びその他】

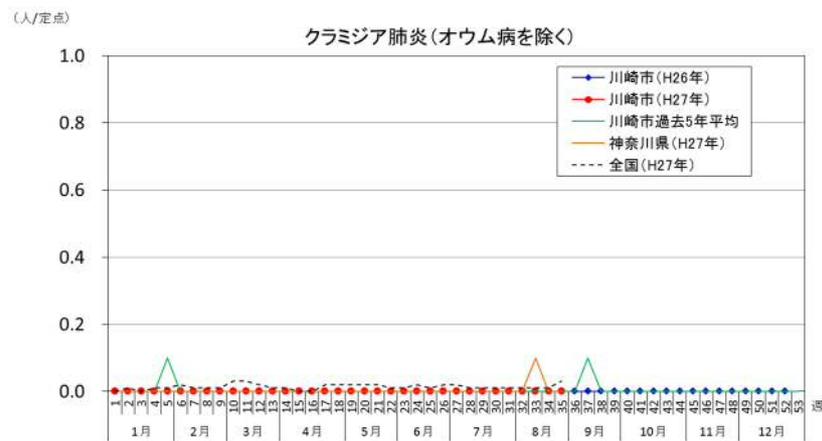
全国的には例年よりやや高いレベルで推移しました。



クラミジア肺炎(オウム病を除く)

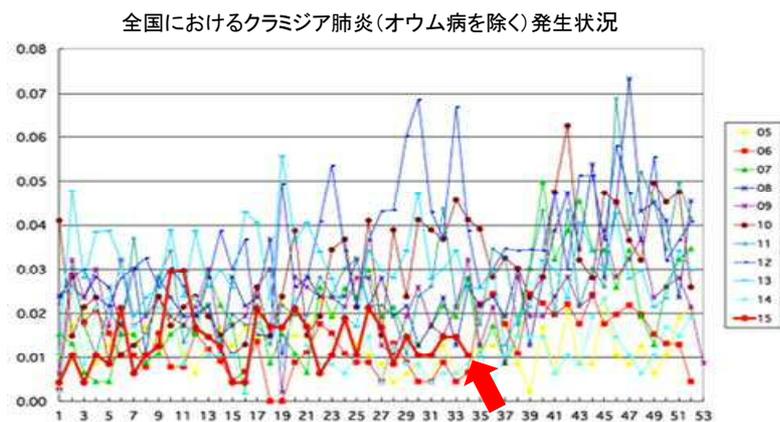
【川崎市】

今期は報告がありませんでした。



【全国及びその他】

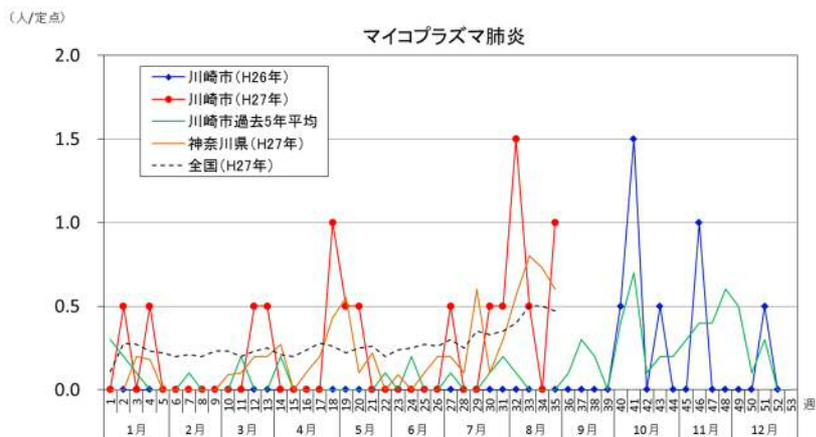
全国的にも例年より低いレベルで推移しました。



マイコプラズマ肺炎

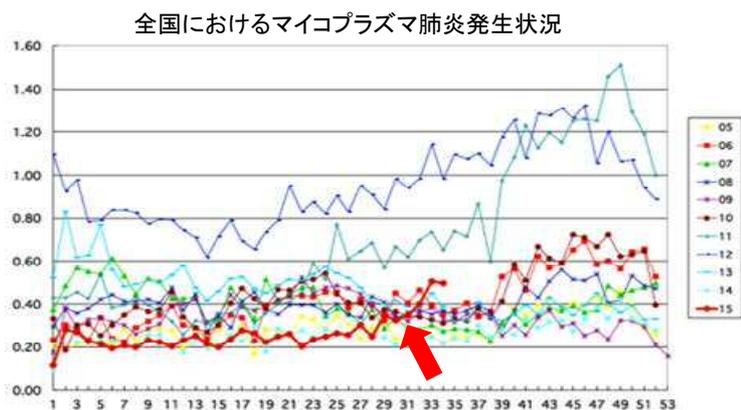
【川崎市】

今期は計 15 件の報告があり、過去 5 年平均の報告数は 2.2 件で、例年よりかなり高いレベルで推移しました。



【全国及びその他】

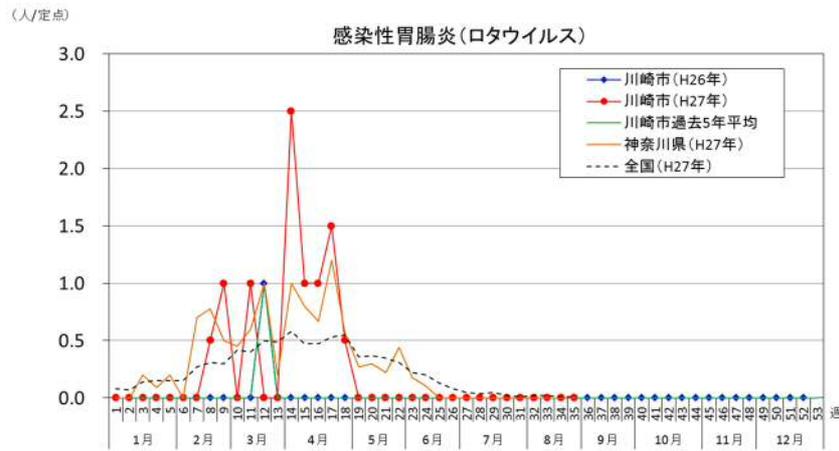
全国的には、7月まで例年より低いレベルで推移しましたが、8月以降は高いレベルで推移しました。



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

【川崎市】

今期は計 15 件の報告があり、過去 5 年平均の報告数は 2.0 件で、例年よりかなり高いレベルで推移しました。



なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

検体送付日	区名	患者性別	患者年齢	検査結果(ウイルス)	血清型
H27.4.3	川崎区	女	2	ロタウイルス	G1P[8]
H27.4.3	川崎区	女	7ヶ月	ロタウイルス	G1P[8]
H27.4.3	宮前区	男	3	ロタウイルス	G9P[8]
H27.4.10	川崎区	男	7ヶ月	ロタウイルス	G1P[8]
H27.4.10	川崎区	男	10ヶ月	ロタウイルス	G1P[8]
H27.4.13	宮前区	男	8ヶ月	ロタウイルス	G2P[4]
H27.4.14	川崎区	女	8ヶ月	ロタウイルス	G1P[8]
H27.4.23	川崎区	女	1	ロタウイルス	G2P[4]
H27.4.23	川崎区	女	1	ロタウイルス	G1P[8]
H27.4.27	宮前区	男	3ヶ月	ロタウイルス	G9P[8]

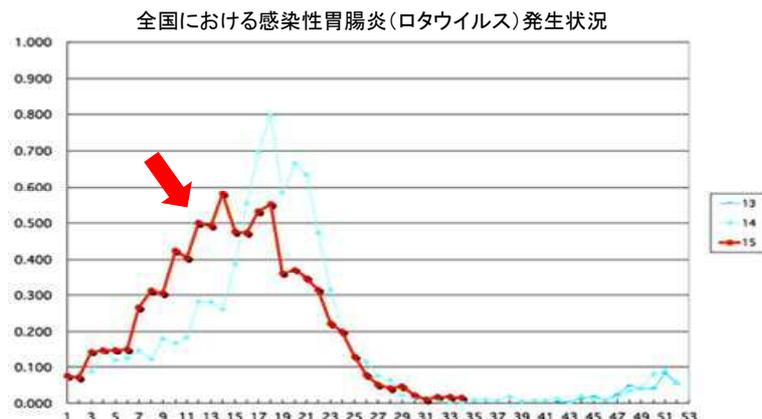
※単価ワクチン：G1P[8]を成分とした弱毒生ワクチン

※5価ワクチン：G1、G2、G3、G4、P1A[8]を成分とした弱毒生ワクチン

単価ワクチン及び5価ワクチンについては、いずれも G1P[8]、G2P[4]、G3P[8]、G4P[8]、G9P[8]に効果があると添付文書に記載されている。

【全国及びその他】

全国的には、平成 26 年と比較して、3 月頃まで高いレベルで推移しました。

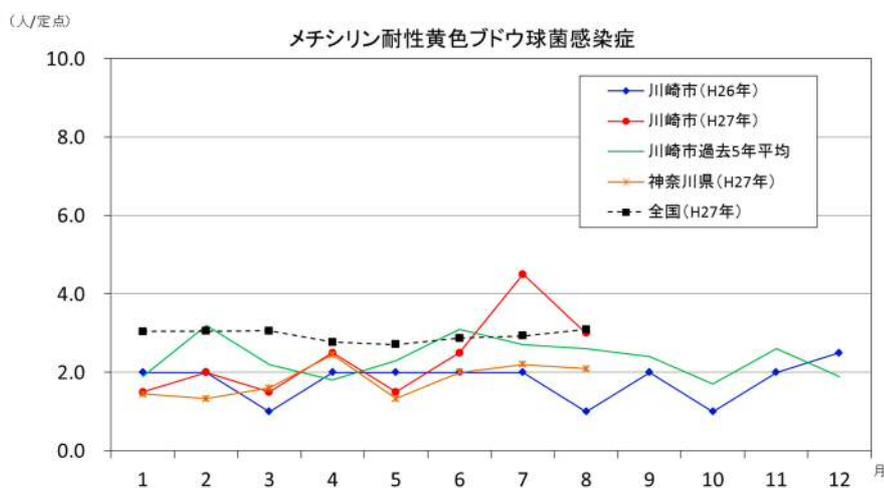


<基幹定点対象疾患（月報）>

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

【川崎市】

今期は計 31 件の報告があり、過去 5 年平均の報告数は 28.8 件で、ほぼ例年並みのレベルで推移しました。



【全国及びその他】

全国的には例年より低いレベルで推移しました。

